

# 高安ルーツの能後援会だよりその10

## 高安能未来発信プロジェクト 2017 終盤です

### 連続講座「河内の歴史文化再考」～ASIATO～

#### 第4回「高安」間（アイ）狂言詞章制作あれこれ

最終回の11月25日は、今年2月25日に復曲披露の能「高安」の間（アイ）狂言の話題です。講師は観世流能楽師シテ方山下あさのさん。

「高安」の復曲では、台本に当たる詞章について、若い研究者の方々が基本の文を作り、それについて主任の西野春雄法政大学名誉教授を中心に研究者と能楽師が検討を重ね、形を創り上げてこられました。実は物語の背景や登場人物について説明する間（アイ）狂言の土台文を組み立てられたのが山下師です。どのようなお話が聞けるか楽しみです。皆様ぜひご参加ください。

お申込み 高安能 HP:<http://www.takayasu-noh.com> のお申込みフォーム  
または高安能事務局 FAX:072-999-7491 Mail:[takayasu@caepass.info](mailto:takayasu@caepass.info) まで。

(これまでの講座にすでに登録の場合はお申し込み不要です)

#### 【1～3 講座内容ご報告】

##### 第1回 俊徳丸、高安の女 —逆説的な河内の能の物語— 9月2日

能楽研究者で能楽と郷土を知る会代表、能のこぼれを讀んでみる会主宰の朝原広基さんによる能物語講座。俊徳丸と高安の女がそれぞれ登場する「弱法師」「井筒」「高安」などから、世阿弥の手による本と現代で上演されている本の違いやストーリー上の疑問点などを様々な資料を見比べながら解説して頂きました。特に「高安」に関しては復曲したばかりで先生のお話にも熱が込められます。受講した皆さんも地域との繋がりを感じながら楽しく学ばれていました。

##### 第2回 河内の歴史文化を再認識するパネルディスカッション 9月30日

恩智神社宮司の新海英宣氏にご登壇いただき、地域文化の石上敏氏、中世文学の浅見緑氏、法制史の橋本久氏を交えて古い歴史を持つ恩智神社を紹介しながら、八尾市指定無形民俗文化財として登録されている恩智神社卯辰祭供饌行事の話題などを中心にそれぞれのご専門の立場から “人” により支えられ伝えられていく無形文化財についてのお話をいただきました。

##### 第3回 「恩智神社と猿楽座」10月28日

前号で予告のとおり、高安能講座では3回目となるこの日、八尾市立歴史民俗資料館小谷館長はこれまでの中世の高安地域の話や室町時代の八尾の芸能文化の話を踏まえて、地元大庄屋の大東家文書などの史料をもとに中世から近世の恩智地域に存在したされる「猿楽座」について、大坂夏の陣直後の村掟に猿楽座の座長と思われる人物「権正(ごんのかみ)」の名も見えること、祭礼の時や代官役人が村に来た時などに翁舞を披露するなどして大いに活躍していたらしいことなどを解説されました。大変古い歴史のある恩智神社の神宮寺である感応院には「絹本着色不動明王像」図など非常に貴重な文化財もあるそうです。

## 『高安薪能』 時・所・人を得た、弱法師でした



2017年10月9日午後5時この世のものと思えない美しい夕陽が大阪平野の向こうに沈んでいくのを玉祖神社に集まった300人以上の方々と一緒に見ました！ハルカスをランドマークに「弱法師」の舞台の天王寺から高安への道を思い描きながら物語の世界に浸ることができました。当日午後には「高安と能楽の関わりを探る講座」も開かれ、講座と薪能の様子がレポート記事として能楽専門紙「能楽タイムズ」11月号に掲載されましたので、記事内容を転載させていただきます。

(レポーターは講座にご登壇いただいた橋場、今泉両先生)

### 【報告】高安薪能と講座—地域文化資源としての能楽—

『高安薪能』及び『高安と能楽の関わりを探る講座』は「次世代へつなぐ高安能未来発信プロジェクト」の一環として催された(ともに十月九日)。講座(於・旧八尾市立中高安小学校)は二部構成。第一部の講話「八尾に埋もれた能楽曲」では、まず、本年二月に同地で復曲披露された能〈高安〉の一部を上映した。次いで、同曲についての評が各講師から述べられ、再演に向けての指針にもなった。講師は、西野春雄氏、金子直樹氏、今泉隆裕氏、橋場夕佳(筆者)。金子氏は能〈高安〉を「素直」「自然」な、想像と創造の余地がある曲と評価した。一方で、本曲クセで「高安の女」が語る「井筒の女」の心情をどう捉えるのか、業平との恋の思い出を象徴する笛の音の演出の是非などの課題も示された。今泉氏は「けこ」と「飯貝」を鍵に、高安の女にその家の主婦権を渡された女という側面を持つことについて、筆者は復曲に合わせて作られた間狂言が能の作品世界を支える可能性について述べた。西野氏からは〈高安〉の総評とともに、八尾に残る「手塚」にゆかりの能〈綱〉の復元創作という新たな計画が発表された。長唄〈綱館〉、歌舞伎(兵四阿屋造)の源流を遡ることで、散逸した能〈綱〉をよみがえらせるというものである。聴講者は150名。第二部は薪能会場である玉祖神社までの謡跡探訪。

同プロジェクトにとって〈高安〉復曲は大きな成果であるが、それをゴールとせず再演へ継続的に取り組み、能〈綱〉の復曲に向けても新たに動き出している。主催者である高安能未来継承事業推進協議会は、文化庁の「地域発・文化芸術創造発進イニシアチブ」(27年度からは「文化遺産を活かした地域活性化事業」)の採択を受けて今年で四年目、その前身である「高安ルーツの能実行委員会」の発足から十年目となる。この間、地域住民有志、能楽師、研究者の協力のもと、薪能の開催と並行して講座を開講することで、地域の文化資源としての能楽の魅力を発信してきた。(橋場夕佳／能楽研究家)

講座につづき玉祖神社境内に於いて『高安薪能』が開催された。ワキ方高安流祖は当社社人を務めたとされる。演目の大半は当地ゆかりのもの。独吟〈高安〉原大、仕舞〈井筒〉塩谷恵、〈山姥〉梅若堯之、能〈弱法師〉シテ山中雅志／ワキ高安勝久／笛・貞光訓義／小鼓・清水皓祐／大鼓・高野彰／地頭・梅若堯之ほか(敬称略)。立見鑑賞自由で、用意した席数を上回る300人超の観衆。玉祖社は大阪市街を一望できる高台、当日は晴天、金子直樹氏が〈弱法師〉解説中、西に日が傾きはじめ、その光景を前に日想観の説明で俊徳丸が心眼にみた夕陽そのものと加えた。〈弱法師〉は、シテを勤める山中氏が平成二十五年玉祖社に奉納した面(作藤本重広)で演じられた。能舞台のない玉祖社での演能は毎年拝殿一部を取り外して実施される。演者は目付側の柱を石の鳥居に見立てるなど工夫を凝らす。ワキは現高安流宗家・高安勝久氏で、ゆかりの流派の演技に御当地演目を配した薪能は八尾高安の人々にとっては誇らしい催しだったにちがいない。(今泉隆裕／横浜桐蔭大学教授)

## 広告灯籠ご協賛、後援会費ご入金ありがとうございました。

### 御 礼

薪能開催にあたり今年も広告灯籠のご協賛をお願い致しましたところ、180,000円のご支援が集まりました。また、高安能活動全体へのご支援として、平成29年度後援会費を薪能までに144,000円ご入金いただきました。皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

平成29年10月 高安ルーツの能実行委員会 会長 棚橋利光

さてこれからの楽しみ

### 🎵まずは恒例新春行事 🎵玉祖神社で「高安」を謡おう

来春1月4日(木)11時～ 山中雅志師他の方々が玉祖神社拝殿にて謡曲、仕舞を奉納されます。その折、これも恒例となって参りましたが、後援会の皆様はじめ一般の皆様と一緒に「高安」を謡いましょう！🎵 というお誘いです。

#### 【玉祖神社新春奉納】

奉納日時 平成30年1月4日

場 所 玉祖神社境内拝殿(雨天決行)

番組 神歌 鶴亀 高安 その他仕舞など

#### 【「高安」謡いの講習会】

日程 平成29年12月11日(月)21日(木)いずれも午後5時開始(変更有)

講習会場 レンタルスペース山本 河内山本駅下車 川沿い南へ1分

資料代 1,500円(謡本購入費を含みます。すでにお持ちの場合は500円のみ)

講師 観世流シテ方 山中雅志師

お申込み・お問い合わせ mail : [yama.mar.fukki@ezweb.ne.jp](mailto:yama.mar.fukki@ezweb.ne.jp)

fax : 06-6692-3845 tel : 080-5365-4038

### 🎵外国人向け「八尾と能」🎵 能楽体験ワークショップ

日本の伝統芸能で、2008年に一番最初にユネスコ無形文化遺産に登録された「能」について紹介します。もちろん八尾との関係にも触れますし、ワキと大鼓は高安流です。

日時 2月4日 午前10時～11時45分

場所 八尾市文化会館 3F 展示室 (無料)

対象 一般市民(外国人優先)60人(要申込)

申込 1月7日～ 主催者まで 072-924-3331

主催 (公財)八尾市国際交流センター

協力 高安能未来継承事業推進協議会

※お知り合いの外国の方にご案内くださいね！

NOH - classical Japanese musical drama -  
八尾と能

能 (のう) のお話、八尾と能について  
謡 (うたい) のおけいこ 「高砂 (たかさご)」  
囃子 (はやし) 楽器の説明  
笛 (ふえ) 小鼓 (こつづみ) 大鼓 (おおつづみ)  
能面 (のうめん) の説明 体験  
能 「井筒 (いづつ)」八尾にゆかりの作品上演  
(クライマックスシーンだけ約20分)



## 山中雅志師が八尾市文化新人賞受賞 おめでとうございます！

高安能の活動を牽引していただいています観世流能楽師シテ方山中雅志氏が平成29年度八尾市文化新人賞を受賞され、11月3日八尾市文化会館にて授賞式が行われました。高安能活動自体が認められたようで、大変うれしいですね！

受賞について、八尾市 HP 以下のように掲載されていますので転載させていただきます。

### 【主な事績】

氏は、4歳で初舞台を踏み、観世流シテ方能楽師として数多くの舞台に出演し続けている。本市においては高安地域をゆかりとする能楽を振興し、魅力として発信していく活動に精力的に取り組んでいる。

平成20年には「しおんじゃま芝能」を企画し、高安の地でゆかりある曲を、能のワキ方と大鼓方の流儀の一つである高安流の演者を交えて上演するという基本スタイルを起案した

平成21年度には、文化庁の助成を得て舞台芸術の魅力発見事業「高安ルーツの能鑑賞会」を横浜能楽堂で開催し、能楽と本市の関わりについて全国規模での発信を始めたまた同年度から、文化庁の芸術家の派遣事業を活用し、本市内の小中学校等で能楽紹介の体験型授業を実施してきた。平成23年からは、高安流の流祖が神官であったと考えられる玉祖神社を会場に「高安薪能」を継続的に開催している。

氏は、廃絶曲となっていた能楽曲「高安」の復曲を提案し、能楽界を代表する研究者、出演者のもとに氏自ら何度も足を運ぶことで協力を得て、3年がかりで復曲を実現した。平成29年2月には本市の文化会館プリズムホールにおいて、約300年ぶりとなる復曲披露公演を開催するに至った。

日本が世界に誇る伝統文化の一つである能楽と本市高安地域の関わりを多くの人に発信するとともに、郷土の文化遺産として次世代の子どもたちに伝えていく市民活動を能楽師の立場から牽引する氏の功績は、本市の伝統文化の振興、魅力の発信に寄与されるものであり、今後ますますの活躍が期待できるものである。